

平成27年度関東東海北陸農業試験研究推進会議

関東東海・病害虫部会現地研究会 開催要領

関東東海北陸農業試験研究推進会議 関東東海・病害虫部会長
中央農業総合研究センター 病害虫研究領域長
後藤 千枝

1. 趣旨

近年、九州から関東の一部地域において、イネ縞葉枯病の発生面積が拡大傾向にあり、減収要因の一つとなっている。本病害は、ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であり、その防除には、ヒメトビウンカの密度のみならず本病ウイルス保毒虫率も注視する必要がある。関東東海地域の都県においては、本年度も既に本病に関する注意報が発令されており、毎年、注意喚起が促される病害となっている。本現地研究会では、イネ縞葉枯病に焦点をあて、本病発生とその被害実態、さらには縞葉枯病抵抗性品種の開発・育成・普及等、被害軽減のための防除対策について検討する。2日目は、岐阜県就農支援センターにおける県のトマト就農支援の取り組みと独立ポット耕栽培について紹介いただき、また岐阜県農業技術センターでは、イネ縞葉枯病耐病性品種ハツシモ岐阜SLの立毛状態、アイガモロボットの実演を視察する。

2. 開催日時 平成27年10月6日(火) 13:30～7日(水) 12:00

3. 開催場所

研究会 (1日目) じゅうろくプラザ 5F 大会議室 <http://plaza-gifu.jp/>

〒500-8856 岐阜県岐阜市橋本町1丁目10番地11

TEL: 058-262-0150 (代) FAX: 058-262-0151

JR岐阜駅下車、徒歩約2分、名鉄岐阜駅から約7分

現地視察 (2日目) 1) 岐阜県就農支援センター (海津市海津町平原 1165)

2) 岐阜県農業技術センター (岐阜市又丸 729-1)

4. 検討事項

「イネ縞葉枯病の現状と防除対策」

1) イネ縞葉枯病の発生および被害の実態と被害軽減のための防除対策について (仮題)

中央農業総合研究センター

柴 卓也

2) 縞葉枯病抵抗性とそのマーカー選抜育種 (仮題)

中央農業総合研究センター

早野 由里子

3) イネ縞葉枯病抵抗性品種「ハツシモ岐阜SL」の育成と効果 (仮題)

岐阜県農業技術センター

荒井 輝博

4) 埼玉県におけるイネ縞葉枯病抵抗性品種の普及と課題 (仮題)

埼玉県農業技術研究センター

酒井 和彦

5) 総合討論

5. 参集範囲

関東東海地域各都県行政部局及び試験研究機関、農林水産省生産局、消費・安全局、農林水産技術会議事務局、関東農政局、東海農政局、民間研究機関、大学、国立研究開発法人農業生物資源研究所、国立研究開発法人農業環境技術研究所、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究所、野菜茶業研究所、花き研究所、生物系特定産業技術研究支援センター、中央農業総合研究センター、その他部会長が認める者

6. 連絡先

会議関係：中央農業総合研究センター 病虫害研究領域

赤松 創 akamatho@affrc.go.jp

TEL 029-838-8532 FAX 029-838-8532

参加申込み：岐阜県農業技術センター 環境部

棚橋 寿彦 tanahashi-toshihiko@pref.gifu.lg.jp

TEL 058-239-3135 FAX 058-239-3139

7. その他

参加、会場案内等詳細については岐阜県農業技術センター環境部から別途連絡する。

また、中央農業総合研究センターホームページの「研究交流の広場」

http://www.naro.affrc.go.jp/narc/kenkyu_koryu/suishin/058046.html

からも入手できる。